

整理番号	201	事業名[地区名]	農村地域復興再生基盤総合整備事業(農地整備事業(通作条件整備型))小島3期地区【伊達市・川俣町】	全体事業費	1,877百万円	採択年度	H25	完成目標年度※	H32	担当部(局)課名	農林水産部・農村基盤整備課
------	-----	----------	--	-------	----------	------	-----	---------	-----	----------	---------------

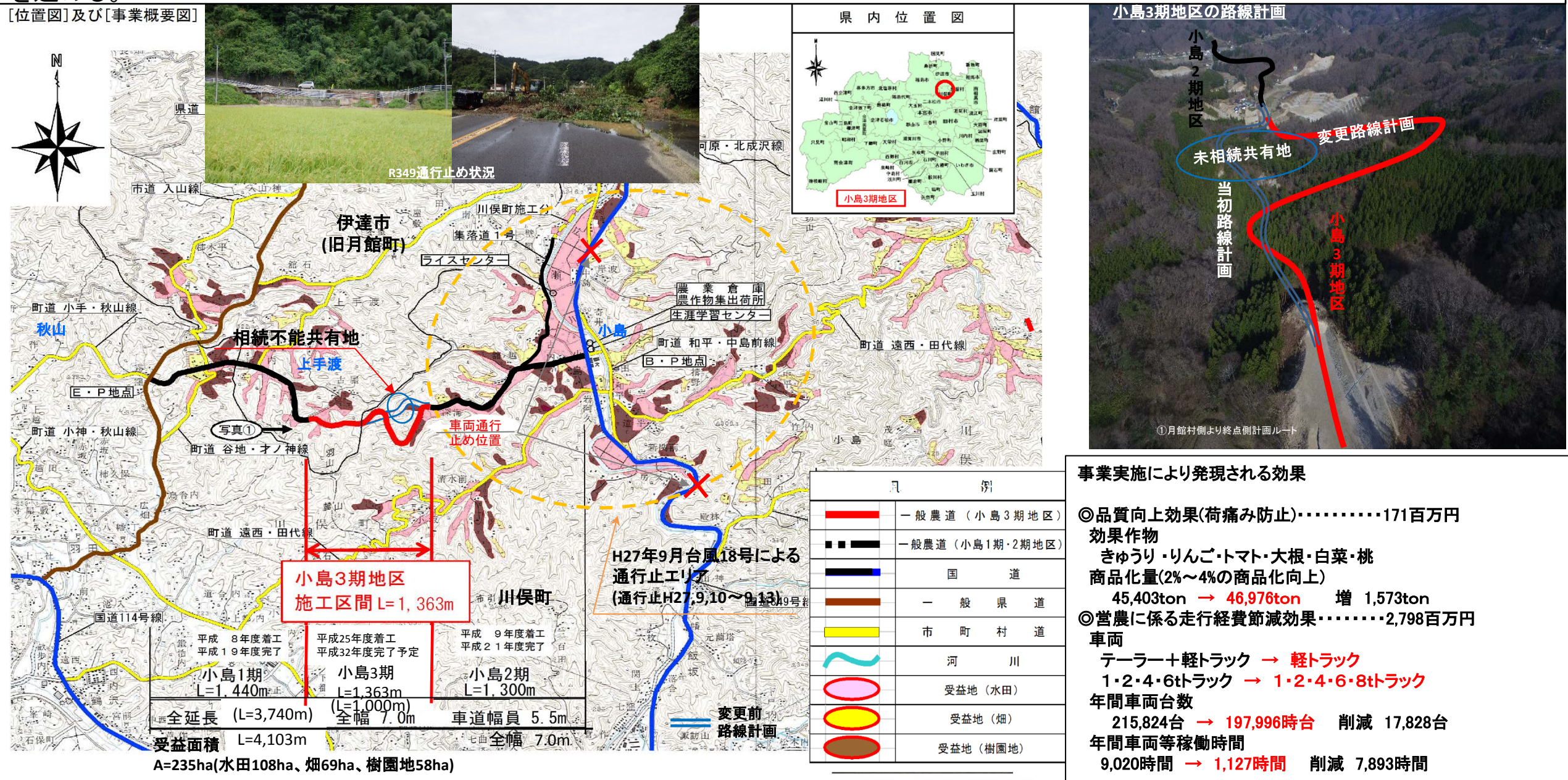
※完成目標年度は、標準的な工程を想定して設定しているが、毎年度の予算は担保されたものではなく、用地取得状況や施工上の条件変化等、不確定な要素があるため、確定したものではない。

評価対象理由	計画変更を行おうとする事業(事業費及び事業規模の30%以上の変更)	前回評価時の対応方針	前回評価なし(委員からの提言: -、付帯意見等: -、県の対応方針: -)
--------	-----------------------------------	------------	---------------------------------------

### 1 事業の概要

- 本地区は、伊達郡川俣町の北西部に位置し、阿武隈山系の丘陵地に展開する中山間地域である。関係する3集落を結ぶ道路は無く、既存の道路も砂利道で幅員が狭く、月舘町側を大きく迂回して各集落に接続しているため、集落の往来及び農産物の集出荷等に支障を来している。
- 本事業により、道路の改良・舗装、新設を進め、集落間を結ぶ生活道路として農村生活環境の改善を図るとともに、農産物の流通の合理化を進める。

[位置図]及び[事業概要図]



事業実施により発現される効果	
◎品質向上効果(荷痛み防止).....	171百万円
効果作物	きゅうり・りんご・トマト・大根・白菜・桃
商品化量(2%~4%の商品化向上)	45,403ton → 46,976ton 増 1,573ton
◎営農に係る走行経費節減効果.....	2,798百万円
車両	テラー+軽トラック → 軽トラック
	1・2・4・6tトラック → 1・2・4・6・8tトラック
年間車両台数	215,824台 → 197,996台 削減 17,828台
年間車両等稼働時間	9,020時間 → 1,127時間 削減 7,893時間



## 2 事業の進捗状況等

評価基準 A:特に問題なし、B:問題あるが解決の見込みあり、C:問題があり解決が難しい

(百万円)

地区	全体事業費		事業執行済額	年度別執行額			
	変更前	変更後		～28年度	29年度	30年度	31年度見込
小島3期地区	1,291	1,877 (+586) (増45.4%)	351	151	200	600	600
小島地区全体	2,152	2,726	1,200	1,000	200	600	600

### 【計画変更の必要性】

- 当初計画路線について事前調査を実施したところ、相続人の確認困難な共有地が存在したことから路線の見直しが必要となった。
- このため事業費が増額となった。

### (1)現状及び見通し [評価(A)・B・C]

- 平成21年度までに1期地区と2期地区は、完了(2,740m 工事進捗率66.8%)。
- ルート変更路線の用地について、事前調整の結果、地権者の了解は得られており用地確保の問題は無い。
- ルート変更により、工期を2ヶ年間延長し、平成32年度の完了が見込まれる。

### (2)期待される効果 [評価(A)・B・C]

- 農道改良舗装、新設に伴い、農産物輸送時の荷痛み防止による増収効果、農産物の集出荷や農業資材等の輸送効率が改善され、労働時間の省力化や営農に係る走行経費節減・機械経費節減が図られる。  
(※年間車両等稼働時間 9,020時間→1,127時間に短縮)
- 本事業により集落の交流等の促進、大規模災害時の広域的な避難や緊急物資等の迅速な輸送を可能にする災害に強い交通体系の構築が図られる。

### (3)事業を巡る社会経済情勢の現状・変化、地元住民等の意向 [評価(A)・B・C]

- 農道整備により農業の機械化促進や大型輸送車の導入が進展し、農産物の荷痛み防止による品質向上が図られ、さらに地域の生活道路として住民の利便性が増すため早期開通が望まれている。
- 地域住民からの要望は強く、用地買収・残土受入れ等協力的である。平成27年度の災害時に国道R349号線が通行止めとなってからは、避難道路としての役割にも期待されており、早期全線開通を強く望まれている。

### (4)評価指標の状況 [評価(A)・B・C]

小島地区全体(1期～3期)

評価指標		現況(H21)	現計画(H21)	変更計画(H30)	現況からの増減(変更計画)	備考
畑作物商品化	率	33%～92%	36%～96%	36%～96%	増2～4%	キュウリ トマト りんご
	量	45,403ton	44,356ton	46,976ton	1,573ton	
走行経費節減	車種	テラー、軽トラ・1・2・4・6tトラック ⇒ 軽トラ・1・2・4・6・8tトラック				輸送車両の大型化
	台数	215,824台	202,943台	197,996台	▲17,828台(効率化)	

### (5)費用対効果の状況・要因の変化 [評価 A (B)・C]

$$B/C = \frac{B①+B②+B③+B④}{C①+C②} = \frac{171+\Delta 68+2,798+1,098}{3,482+265} = 1.06 \text{ (前回値1.12)}$$

※ 小島地区全体(1期～3期)

#### [効果項目]

B:当該事業による総便益

- B①:品質向上効果(荷傷み防止による増収等) 171百万円
- B②:維持管理費節減効果(施設の補修・草刈り等) Δ68百万円
- B③:営農に係る走行経費節減効果 2,798百万円
- B④:一般交通等経費節減効果 1,098百万円

#### [費用項目]

C:当該事業による費用

- C①:当該事業による費用:当該事業費(工事費、測量試験費、用地費) 3,482百万円
- C②:その他費用:関連事業費+再整備費-資産価額 265百万円

#### 【費用の変化等】※ 小島3期地区

ルート変更及び岩掘削経費の増等	369百万円
工事雑費(補助対象外)の減	Δ12百万円
物価変動費の増等	229百万円
計	586百万円

### (6)コスト縮減の取組・代替案の検討状況 [評価(A)・B・C]

- 発生土を現場内で流用することや近傍での残土処理、再生材(骨材・As)の使用によるコスト縮減に努めている。
- 本地区は、始点側2期地区及び終点側1期地区は完成しており、地区中央に位置する小島3期地区の他に各集落を連絡する農道機能の代替は出来ない。

## 3 評価

### (1)県の対応方針案

### (2)理由

見直し継続

小島1期地区、小島2期地区が完成しており、農村3集落を結ぶ新たな農道を整備し、集落間の往来と農産物流通の合理化を図るために必要不可欠な路線であり、事業費が増えても効果発現が見込まれるため、継続して事業を実施する必要がある。